

「e VITARA」発表会

スズキ株式会社 代表取締役社長 鈴木 俊宏 挨拶

本日は「eVX」の量産モデル「e VITARA」の世界初公開にご参加いただきありがとうございます。ごぞいます。「e VITARA」はいかがでしたか？気に入っていただけたら幸いです。

自動車技術の最先端を行くここ欧州市場は、これまでもこれからも我々スズキにとって重要な市場であり続けます。そして本日、この場でスズキの BEV 世界戦略車の第一弾である「e VITARA」を公開でき大変嬉しく思います。これはスズキのカーボンニュートラル実現において非常に重要なマイルストーンとなります。

スズキの原点は、創業者鈴木道雄が「母の織物仕事を楽にしたい」という思いからつくった織機にごぞいます。1909年「鈴木式織機製作所」として創業後、その歩みを止めることなく成長を続けてまいりました。その後、時代の変化に合わせて二輪車、四輪車、船外機と事業の幅を広げてまいりました。2023年度には四輪車320万台、二輪車190万台を販売し、全社合計で5.4兆円を売り上げました。直近の2024年度上半期の四輪事業では、グローバルで前年同期比2%増と約160万台、ここ欧州では前年同期比5%増となる11万8千台を達成することができました。

昨年発表しました2030年度に向けた成長戦略では、日本、欧州、インドを主要事業拠点と位置付けております。日本と欧州では、技術と製品を作り出しそれらに磨きをかけていくこと、インドでは広く、深く、徹底的に現地に根付き、社会とお客様の期待に応えることを目指しています。また、これらの地域でカーボンニュートラルを実現することも戦略骨子の一部です。その他の地域においては、アフリカ、中南米、東南アジアなど各地域の成長に貢献し、スズキも共に成長していく所存です。その成長を通じて、2030年度には売上7兆円の達成及び持続的成長を実現します。人と社会に必要とされる存在となるべく「生活に密着した企業」目指してまいります。当社の社是にある通り今後も「お客様の立場になった」製品とサービスの提供を通じ、スズキならではの解決策に取り組んで参ります。

また、当社は先般、エネルギーの極少化という 10 年先を見据えた技術戦略を発表いたしました。この戦略の達成において、スズキの行動理念が重要な役割を果たします。それらは、「現場・現物・現実」、「小・少・軽・短・美」、「中小企業型経営」の3つであり、これらを実践することで企業価値を上げてまいります。本日は、「小・少・軽・短・美」についてご紹介させていただきます。「小」はよりコンパクトに、「少」はより少ない資源で、「軽」はより軽くつくる、「短」はより短く迅速に、「美」はそれらをより美しく仕上げるという意味です。カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの収支を全体としてプラスマイナスゼロにすることです。つまり、排出した CO₂ と同じ量を吸収・除去することで実現できるということです。車がライフサイクルで使うエネルギーを極少化して、CO₂ の排出を極限まで少なくする。これが私たちの考える技術哲学です。例えば「軽」について説明します。欧州・日本・インドでの全社平均の車両重量とスズキ車の平均車両重量を比較すると、スズキは他社よりも 200 kg 軽く作っています。200 kg 軽いと、走行に必要なエネルギーは 6%、製造時のエネルギーは 20% 少なく済み、当然のことながら資源の使用が少なく済む、というのがスズキの技術理念です。そしてこの理念はスズキ全商品に共通するものです。二輪では、鈴鹿 8 耐において CN 燃料を使用したチームスズキ CN チャレンジで参戦しました。マリンでは海洋のマイクロプラスチック回収技術など、環境配慮技術に挑戦しております。

スズキは、エネルギー極少化によるカーボンニュートラル実現に取り組みます。バッテリーEVに加え、ハイブリッド車、CNG 車、バイオガス・エタノール配合燃料などの内燃機関車も投入し、地域に合った最適なソリューションを提供します。

「e VITARA」は 2023 年のインド Auto Expo と Japan Mobility Show で展示した「eVX」の量産モデルです。このモデルは、日常にも週末の旅行にもちょうど良い SUV です。デザインコンセプトは「Hi-Tech & Adventure」であり、BEV の先進感と SUV の力強さを融合しました。プラットフォームには BEV 専用の「HEARTECT-e」を開発し、また 4WD 車には、1970 年のジムニーから続くスズキの四駆技術を駆使した新しい ALLGRIP シリーズ「ALLGRIP-e」を採用しています。生産はインドのスズキ・モーター・グジャラート社で 2025 年春から開始します。